

令和5年度（令和4年度対象）

南丹市教育委員会
点検・評価報告書

令和5年10月

南丹市教育委員会

本報告書は、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすため「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第1項の規定に基づき、南丹市教育委員会が毎年度示す「南丹市教育の指針」に沿って事務の執行状況について点検・評価したものです。

南丹市教育委員会では、今後も教育環境の整備・充実を図るとともに、ふるさと南丹市を愛し生涯にわたって主体的で心豊かに学び続ける教育の推進に努力してまいります。

南丹市教育委員会

教育委員会委員名簿（令和5年10月現在）

職名	氏名
教育長	國府常芳
教育長職務代理者	高屋毅史
委員	城戸貴子
委員	淵上真奈美
委員	前田好久

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 教育委員会議の開催状況

教育委員会議については、原則として毎月1回「教育委員会定例会」を開催し、必要に応じて臨時会を開催いたしました。

■令和4年開催教育委員会議

- (1) 教育委員会定例会・・・12回
- (2) 教育委員会臨時会・・・2回

2 教育委員会議での審議状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第21条に定める職務について、同法第25条及び「南丹市教育委員会教育長事務委任規則」の規定に基づき、令和4年は合計44件について審議いたしました。

- (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針・・・14件
- (2) 教育委員会規則等の制定及び改廃・・・・・・・・・・・・・・19件
- (3) 職員（教職員を含む）の人事に関する事・・・・・・・・・・・・11件

回	開催日	案 件
1	1月19日 定例会	報告第1号 南丹市立小学校及び中学校に勤務する府費負担教職員の職務に関する規程の一部改正について・令和3年度南丹市スポーツ・文化賞表彰式について ・南丹市伝統的建造物群保存地区保存審議会の報告について ・南丹市成人式について ・郷土資料館収蔵品展・人権教育講座の案内
2	2月10日 定例会	議案第1号 令和3年度南丹市一般会計補正予算に係る地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づく意見聴取について 議案第2号 令和4年度南丹市一般会計当初予算に係る地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づく意見聴取について 議案第3号 自動車交通事故に係る和解について 議案第4号 公の施設の指定管理者の指定について (南丹市八木スポーツフォアオール外4施設) 議案第5号 南丹市立中学生英語検定料補助金交付要綱の一部改正について
3	2月24日 臨時会	議案第6号 令和4年度南丹市教育委員会府費負担教職員管理職人事異動の内申について

		<ul style="list-style-type: none"> ・総合教育会議の流れについて
4	3月17日 定例会	<p>議案第 7号 令和4年度南丹市教育の指針について</p> <p>議案第 8号 南丹市公の施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について</p> <p>議案第 9号 南丹市放課後児童健全育成事業に関する条例施行規則の一部改正について</p> <p>議案第10号 南丹市指定文化財の新規指定について</p> <p>議案第11号 南丹市立小学校及び中学校ハラスメントの防止に関する要綱の一部改正について</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・南丹市民生委員推薦会及び準備会委員の選出について ・コロナの発生状況 ・いじめ防止等対策委員会の報告
5	4月1日 臨時会	<p>議案第12号 令和4年度南丹市教育委員会事務局職員の人事異動の承認について</p> <p>議案第13号 令和4年度南丹市立小中学校の主任任命の承認について</p> <p>議案第14号 南丹市学校運営協議会委員の任命について</p> <p>議案第15号 南丹市地域学校協働活動推進員の委嘱について</p> <p>議案第16号 南丹市いじめ防止等対策委員会委員の委嘱について</p> <p>議案第17号 社会教育委員の委嘱について</p> <p>議案第18号 南丹市スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>議案第19号 南丹市立小中学校共同学校事務室の室長及び職員の任命について</p> <p>議案第20号 南丹市立小学校及び中学校における文書取扱規程の一部改正について</p> <p>議案第21号 南丹市立の小学校及び中学校に勤務する府費負担教職員の私有車利用による旅行に関する取扱要領の一部改正について</p> <p>議案第22号 南丹市立小学校及び中学校に勤務する府費負担会計年度任用職員の営利企業への従事等に係る事務処理要領の制定について</p> <p>議案第23号 南丹市立中学校生徒自転車通学ヘルメット支給要綱の制定について</p> <p>議案第24号 南丹市かやぶき屋根保存事業補助金交付要綱の一部改正について</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・各種委員会等への就任について

6	4月19日 定例会	議案第25号 南丹市学校運営協議会委員の任命について 議案第26号 南丹市スポーツ・文化賞表彰規程の一部改正について 議案第27号 南丹市教育委員会が所管する南丹市公の施設の指定管理者の指定の手續等に関する規則の廃止について 議案第28号 南丹市教育委員会所管公の施設の指定管理者選定委員会設置要綱の廃止について
		<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員学校訪問について ・総合教育会議の会議録について ・コロナの発生状況、学級閉鎖等対応の変更について ・山村留学センター退所・入所式 ・たんぼぼ放課後児童クラブの開設について
7	5月25日 定例会	議案第29号 令和4年度南丹市一般会計補正予算に係る地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づく意見聴取について 議案第30号 南丹市社会体育施設条例の一部改正について 議案第31号 南丹市公の施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について 議案第32号 南丹市立小学校及び中学校に勤務する府費負担教職員の勤務に関する規程の一部を改正する規程 議案第33号 南丹市社会教育委員の委嘱について 議案第34号 南丹市教育委員公印規則の一部改正について 議案第35号 南丹市社会体育施設条例施行規則の一部改正について
		<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員学校訪問について ・京都府社会環境浄化推進員の推薦について ・新型コロナウイルス感染症の発生状況について ・南丹市社会教育委員会議の開催について
8	6月16日 定例会	議案第36号 「南丹市教育委員会事務の点検・評価の実施」に係る点検・評価アドバイザーの選任について
		<ul style="list-style-type: none"> ・6月29日学校訪問について ・交通事故の報告 ・スクールバスについて ・新型コロナウイルス感染症について ・人権教育講座（7月2日）の案内 映画「破戒」チケットの斡旋について
9	7月12日 定例会	報告第2号 令和4年度南丹市教育委員会事務局職員の人事異動の報告について 報告第3号 南丹市立小学校及び中学校に勤務する府費負担教職員の服

		<p>務に関する規程の一部改正について（免許申請関係専免規程の除外）</p> <p>報告第 4 号 南丹市立幼稚園保育料条例施行規則の一部改正について・先月の学校訪問について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の状況について ・文化博物館・日吉町郷土資料館企画展について
10	8月16日 定例会	<p>議案第 37 号 令和 5 年度南丹市立小学校使用教科用図書の採択について</p> <p>議案第 38 号 令和 5 年度南丹市立中学校使用教科用図書の採択について</p> <p>議案第 39 号 南丹市教育委員会マイクロバス運行規程の廃止について</p> <p>議案第 40 号 令和 3 年度南丹市一般会計補正予算に係る地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 29 条の規定に基づく意見聴取について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 4 年度「南丹市スポーツ・文化賞表彰」の実施について ・新型コロナウイルス感染症の状況について ・濃厚接触者の待期間の見直し等について ・中学校夏の大会結果報告 ・就学援助認定状況の報告 ・学校給食衛生研修会の報告 ・美山山村留学事業について
11	9月14日 定例会	<p>議案第 41 号 南丹市教育委員会事務の点検・評価の結果報告について</p> <p>議案第 42 号 南丹市学校運営協議会委員の任命について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期学校訪問について ・市町村教育委員研修大会について ・「市長と語ろう私たちのまちづくり」の開催について ・新型コロナウイルス感染症の状況について ・南丹市学校給食運営委員会の報告について ・日吉は一とぴあ体育館について ・南丹市人権教育講座について
12	10月18日 定例会	<p>報告第 5 号 南丹市立小学校及び中学校に勤務する府費負担教職員の職務に関する規程の一部を改正する規程について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ陽性者の報告 ・秋の展示会のお知らせ ・文化博物館、日吉郷土資料館展示会について
13	11月11日 定例会	<p>議案第 43 号 南丹市日吉は一とぴあ設置条例等の一部改正について</p> <p>議案第 44 号 令和 4 年度南丹市一般会計補正予算に係る地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 29 条の規定に基づく意見聴取について</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 明るい選挙推進協議会委員の推薦について ・ 建設事業等執行審議会委員の推薦について ・ コロナ陽性者の報告
14	12月14日 定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南丹市教育委員会年末年始の日程について ・ コロナウイルス感染症の状況 ・ 12/20 社会教育委員会議開催のお知らせ ・ 文化博物館展示会のお知らせ ・ 学びの南丹・人権教育講座（第3講）のお知らせ

3 教育委員会活動

学校・幼稚園等教育施設訪問／令和4年6月

南丹市総合教育会議

京都府市町村教育委員会連合会定期総会、研修会

南丹教育委員会連絡協議会総会、研修会

市町村教育委員会オンライン協議会

4 教育行政事務の取り組み状況に対する点検・評価

南丹市教育委員会事務の点検・評価の実施に関する要綱（平成25年南丹市教育委員会告示第9号）に基づき、下記の要点をもって点検・評価を実施しました。また、教育に関し専門的知見を有する外部評価委員からは、事前送付した事務局作成による調書・資料により、令和5年8月25日に点検・評価に係る意見聴取を行い、様々な意見や助言をいただきました。意見・助言をいただいた外部評価委員は次のとおりです。

（敬称略）

氏名	所属
原 清治	佛教大学 副学長 教育学部 教授
内山 淳子	佛教大学 教育学部 非常勤講師
山本 博樹	立命館大学 総合心理学部 教授

（1）点検・評価の要点並びに構成

① 評価対象

「令和4年度南丹市教育の指針」に基づき実施した教育総務課、学校教

育課及び社会教育課に属する事業のうち、重点事項に属する事務事業（25項目）に対して、外部評価委員からの意見を聴取しております。

② 成果・課題等

事業の実施に伴い、成果が得られた内容や課題を示しています。

③ 「南丹市総合振興計画実施計画」及び「南丹市教育振興基本計画」との関係

それぞれの計画で定められた10年後の南丹市の姿を目指し実施する事業について、実施年度における教育委員会としての点検・評価事務として位置づけています。

④ 内部評価と総合評価 ※評価判断の基準は下記に記載のとおり

（内部評価）対象評価項目事務事業を所轄する担当課による評価です。

（総合評価）内部評価に加え、外部評価委員の参照意見を踏まえた教育委員会としての評価です。

※評価判断基準	
A	計画どおり又は計画以上の成果が得られた
B	課題は残しながらも概ね目標は達成できた
C	課題を残し目標も十分達成できなかった
D	検討段階で具体の成果はなかった

⑤ 点検・評価票記載内容等に係る改善点について

本年度実施した評価委員らの意見聴取を踏まえ、次年度からの運営に資することとします。

◆令和5年度 南丹市教育委員会主要事務事業一覧&「点検・評価」項目（令和4年度事務事業）◆

令和4年度「南丹市教育の指針」		担当課	項目番号	主要事務事業名「点検・評価」項目
①重点実践項目	②実践の方向性			
1. 豊かな人間性の育成	「夢」と「志」を持ち、豊かな人間性を備えた人材を育成する	学校教育課	1	(1) 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業
		教育総務課	2	(2) 共同学校事務室における事務の共同化
	確かな学力の定着と論理的思考力の育成を図る	学校教育課	3	(3) 情報教育研究事業（ICT教育・プログラミング教育）
		教育総務課	4	(4) 情報機器整備事業
	生涯にわたる学習の機会と自発的な学習への参加を促進させる	社会教育課	5	(5) 生涯学習推進事業
	0歳から読書で学べる環境を構築する	社会教育課	6	(6) 講座開設事業（図書館）
		学校教育課	7	(7) 学校司書等設置事業
2. 安心して学べる環境の構築	人権が尊重されるまちづくりの推進	学校教育課	8	(1) 生徒指導の3機能を生かした指導の充実
		社会教育課	9	(2) 人権教育事業（人権教育講座）
	子どもを地域社会総がかりで守る仕組みを整える	学校教育課	10	(3) 児童生徒就学支援事業
	学校や生涯学習施設の安全対策を図る	教育総務課	11	(4) 長寿命化計画、安全・安心な学校教育環境整備事業
		学校教育課	12	(5) 通学安全対策事業
	生涯にわたって誰もがスポーツを楽しみ、文化に親しめる仕組みを整える	社会教育課	13	(6) 社会体育振興事業

令和4年度「南丹市教育の指針」		担当課	項目番号	主要事務事業名「点検・評価」項目
①重点実践項目	②実践の方向性			
3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出	地域資源（重要文化財や歴史資産）を学べる環境を整える	社会教育課	14	(1) 歴史遺産振興事業
		社会教育課	15	(2) 重伝建地区保存修理補助事業及びかやぶき屋根保存修理補助事業
	市の文化財の魅力の創出と発信を行う	社会教育課	16	(3) 展示会事業
		社会教育課	17	(4) 文化財維持管理事業
	さまざまな学習機会を創出する	学校教育課	18	(5) 学校給食運営管理事業
4. 文化芸術の継承・発展による文化の向上	文化芸術を楽しめる環境構築に努める	社会教育課	19	(1) 生涯学習推進事業（文化祭・文化鑑賞）
5. ダイバーシティ教育の推進	外国語教育や多様な文化の学習を充実させる	学校教育課	20	(1) 外国語教育推進事業（英語検定補助）
	ユニバーサルデザイン環境の構築に努める	学校教育課	21	(2) 適応指導教室の運営
	バリアフリー意識の啓発・浸透に努める	学校教育課	22	(3) 特別支援教育推進事業
6. 自己肯定感・有用感の育成	異年齢で学びや交流の場を広げる	学校教育課	23	(1) 校種間連携推進事業
	地域における子どもの居場所を充実させる	社会教育課	24	(2) 子どものための地域連携事業
	子どもが地域社会で活躍できる場を創出します。			
	地域人材が学校で活躍できる場を創出する	学校教育課	25	(3) コミュニティ・スクール推進事業

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	1	令和4年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(1) 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業	担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 「夢」と「志」を持ち、豊かな人間性を備えた人材を育成する。		
事業目的	自らを律しつつ他人とともに協調し、他人を思いやる心を育む。 『地域道徳』の取組により、地域社会総がかりで、実際に行動に移すことのできる道徳的実践意欲と態度を子どもたちに育むとともに、地域の教育力向上を目指す。			
事業内容	国の委託事業を活用し、道徳教育推進事業3年目として、八木中ブロック及び殿田中ブロックを推進地域として先導的な研究を進めつつ、南丹市全域で実践研究を推進する。 ア 事業推進協議会、研究推進委員会の開催（推進地域） イ スーパーバイザー（大学教授）による講演及び指導助言等（年3回） ウ 道徳公開授業及び事前・事後研究会（市内各小・中学校） エ 研究成果の発表及び研究の深化を目指した研究会の実施（年3回）		達成指標	・継続可能な形で「地域道徳」の教育課程への位置付けができています。 ・「地域道徳」にかかわり、保護者・地域との連携システムができています。
			令和4年度予算額	1,231,000円
成果	・引き続きコロナ禍の中ではあったが、きめ細かな配慮の下、保護者・地域住民が実際に参加する形の道徳授業を実施することができた。 ・保・幼・小・中が協働して研究に取り組むことで、発達段階を意識した就学前教育から中学校に至る一貫して連続した道徳教育へとつなぐことができた。 ・直接、動画視聴という形式の違いはあるにせよ、市内の全教職員が参加する形で3回の研究会が実施できた。その中で、スーパーバイザーから道徳教育の在り方、パネルディスカッションや実践報告を通じて、推進地域の先進的な取組の波及を図ることができ、市内全体のレベルアップを図れた。		達成度	・推進地域を中心に、「持続可能」をキーワードの一つに研究を推進し、次年度の教育課程につなぐことができた。 ・システム構築には至らなかったが、保護者・地域住民参加型の道徳授業により、参画した保護者・地域住民の意識に変化が見られた。
			令和4年度決算額	410,685円
課題	・地域道徳に参加した保護者・地域住民には意識の変革が見られ、道徳について語る家庭もみられるようになったが、参加者の増加や参加した人から周囲への成果の波及に課題がある。 ・「特別の教科道徳」における「考え、議論する道徳」への質的変換は、十分とはいえない面があり、引き続き研修を深める必要がある。 ・「総合的な学習の時間」や「特別活動」において地域とともに取り組んだ道徳的価値に関わる体験をいかに「特別の教科道徳」の中で道徳の内容項目と関連付けて補充・深化・統合するかについては、未整理な学校が見られ、改善を図る必要がある。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和4年度「地域道徳」研究のまとめ	
意見内容	南丹市においては地域道徳の推進が3ブロックの中学校区で実施されており、おおむね成果が認められる。 一つの学校だけでしているのではなく、ブロックでの取組みを他のブロックへ導入される手法は大変良い。 道徳教育の質を上げていくのは難しい中、質的な変化が見られる。さらにこれらを高めていく視点をもって、さらなる探求学習を進めてほしい。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）		

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	2	令和4年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(2) 共同学校事務室における事務の共同化	担当課	教育総務課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 「夢」と「志」を持ち、豊かな人間性を備えた人材を育成する		
事業目的	市内の小中学校に在籍する事務職員が事務を協働処理することにより、事務処理の適正化、学校事務の標準化・効率化、学校のマネジメント機能の強化を図る。 教職員の業務多忙化を減じ、学校が組織的に機能を高めるための共同学校事務室の運営			
事業内容	京都府の「京都市チーム学校推進校」の指定を受け、令和2年4月に京都府で初めて設置され、3年目を迎えた。 普段各校で勤務している事務職員が、市役所日吉支所にある専用の執務室に集まり、月1回定例会・リーダー会及び随時の職務担当別会議の開催で、適正な事務処理のために提出書類の確認や、情報収集・研修を行っている。 学務・財務・スキルアップ・広報の4つの職務担当別チームでより深く業務の見直しを行い、予算の有効活用、研修の企画について取り組んだ。		達成指標	学校事務の集中処理、共同処理により、学校事務の効率化・適正化を図り、業務改善を進めすことで、事務職員の意識改革を図る。
			令和4年度予算額	0円
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学務チーム 諸届の様式の統一をおこない、業務の改善・効率化に繋がった。また、文書分類番号を再度見直し、分類方法をさらにわかりやすくした。 ・財務チーム 備品購入を例年より早い時期に計画することで、南丹市全体を視野にいれて購入ができた。また、予算の執行管理は支出額の確認ができ、正確な予算執行をすることができた。 ・スキルアップチーム オンライン会議を短時間で定例化し、中学校ブロックで連携。相互確認によって安心感が上がり、他校の事例を通して自身のスキルアップにつながった。 ・広報チーム 2週間に1回メルマガを発信。3ヶ月に1度の割合で広報紙「tree」を発行。他職種とも連携して、教職員に役立つ情報を掲載。高評価を受けている。 		達成度	共同学校事務室が率先して学校現場の業務改善に取り組むことで、教職員の負担が軽減されている。この取組が評価され、京都府優秀教職員表彰（団体等）に選ばれている。
			令和4年度決算額	0円
課題	アンケート調査では、共同実施の業務で負担感が増したと感じている事務職員が数名いる。また、共同学校事務室があることで、事務職員個々の自由な仕事スタイルがしづらくなったと感じている。負担感を軽減できるよう運営方法についても検討し、質の向上につなげる必要がある。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	広報紙「tree」
意見内容	学校事務の業務負担は全国的にも対応が求められているが、本事業はそれを先取りする形で3年目を迎え、学校事務の業務負担軽減に寄与できており、非常に安定感のある効果的な事業だと考えられる。 他の市町村の範となるべくさらなる発展・充実を期待したい。 引き続き学校内部でのコミュニケーションを図り、さらなる信頼感の向上を期待する。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。		
総合評価	A	※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）		

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	4	令和4年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(4) 情報機器整備事業		担当課 教育総務課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		実践の方向性 確かな学力の定着と論理的思考力の育成を図る		
事業目的	児童・生徒が、タブレット端末を使用した学習をする際の校内ネットワーク環境等の維持管理及びICT機器の保守管理と整備を行う。			
事業内容	小・中学校におけるICT教育環境の整備と、機器等の維持管理を行った。 〔主な業務内容〕 ・タブレット端末回線利用 ・GIGAスクール運営支援センターの整備 ・タブレット端末保守及びセキュリティ対策ソフト等使用 ・モバイルルータ使用 （校外学習及びWi-Fi環境が整っていない家庭用） ・教育用コンピュータ機器等リース		達成指標	国が進めるGIGAスクール構想を推進する。
			令和4年度予算額	37,345,000円
成果	・GIGAスクール運営支援センターを整備したことにより、タブレット端末の適正な運用と学校現場への端末運用の支援を行うことができた。 ・タブレット端末保守及びセキュリティ対策ソフト等を使用することにより児童・生徒が安心してタブレット端末学習を行うことができた。また、不具合発生時には早急に対応することができた。 ・新型コロナウイルスの感染拡大等により臨時休校となった際の対応として、Wi-Fi環境がない家庭にモバイルルータを貸し出す体制を整えることで、学びの保障を確保できた。 ・特別教室等に無線アクセスポイントを追加設置することにより、タブレット端末を活用できる場を広げることができた。（11箇所）		達成度	タブレット端末を活用した学習を充実するため、無線アクセスポイントの追加設置とネットワーク環境等の適正な維持管理を行うことができた。
			令和4年度決算額	35,254,592円
課題	・機器の学習への活用・運用・セキュリティ対策については、学校及び学校教育課との連携が必要。 ・ネットワーク環境等のランニングコストの確保 ・計画的な機器の更新のための費用の確保			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	達成指標はおおむねクリアしていると考えられる。 課題で指摘されているとおり、情報機器はランニングコストを考慮しなければならないため、計画的な機器の更新および予算配分が必要と考える。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	5	令和4年度重点実践項目	(1) 豊かな人間性の育成
点検・評価対象とする事務事業		(5) 生涯学習推進事業	担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 生涯にわたる学習の機会と自発的な学習への参加を促進させる	
事業目的	いつでも、どこでも、誰もが学べる機会を増やし、学術及び文化に関する各種事業を行い、市民の交流と、教養の向上・健康増進等を図り、生活文化の振興・社会福祉の増進・生涯学習の推進を目指す。		
事業内容	各社会教育施設等を拠点として地域性を活かしたソフト事業を、以下の通り実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本画教室Ⅰ,Ⅱ（8回 延べ112人） ・英会話教室Ⅰ,Ⅱ（8回 延べ52人） ・イラスト教室Ⅰ,Ⅱ（4回 延べ34人） ・和菓子づくり教室（1回 17人） ・韓国文化教室（2回 延べ16人） ・編み物教室（4回 延べ24人） ・音楽教室（3回 延べ33人） ・初めてのプログラミング教室（小学生向け）（9回 63人） ・エコクラフト講座（1回 9人） ・ドローン体験講座（1回 9組） ・写真講座（1回 5人） ・ミニチュア&ドールハウス榎田周造のワークショップ（11人） 		達成指標 魅力ある事業を企画し、参加者及び施設利用者を増やす。
			令和4年度予算額 844,000円
成果	新型コロナウイルス感染症対策に伴う施設の利用制限を令和4年6月1日から解除したこともあり、全体的に前年度より利用人数が増加した。 生涯学習施設年間利用状況（件数・人数） <ul style="list-style-type: none"> ・園部文化会館（1,922件 29,815人） ・八木市民センター（1,424件 23,978人） ・日吉生涯学習センター（973件 20,068人） ・美山文化ホール（255件 6,146人） 		達成度 年間延べ参加者数 385人
			令和4年度決算額 409,225円
課題	内容の充実を図り、様々な年代の方に参加してもらえるような魅力ある講座を企画していくため、生涯学習講座を一本化していく必要がある。また年間計画を立ててバランスよく開催するなど、参加しやすい環境を整える必要がある。		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和4年度社会教育事業報告
意見内容	利用者数が前年度より増加した点は評価できるが、コロナ禍以前の利用者と比較したときに増加しているかどうかの検討も必要である。 また、プログラミング教室や日本画教室のように地域のニーズに応じた事業展開が求められる。 今後、生涯学習を利用するニーズ、或いはそのユーザー層が、変わってはいないかしっかりと捉える必要がある。		
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	
総合評価	A		

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	6	令和4年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(6) 講座開設事業（図書館）		担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 0歳から読書で学べる環境を構築する		
事業目的	オーサービジット事業を主体に様々なアプローチで講座事業を実施することにより、読書意欲の向上を図り、生涯学習の柱の一つである読書活動の推進に寄与する。			
事業内容	①オーサービジット事業 (一般向け) 6月4日 講師：今森光彦(写真家) 講演会「身近な自然を見つめる」 (学校向け) 6月21日 塚本 康浩(獣医学博士) 講演会「ダチョウの卵で、人類を救います」		達成指標	
	②図書館を利用した学び講座 ・糸かけ数楽アート教室 10月8日、10月16日 講師：糸かけ師@凜(亀岡市在住) ・読書手帳作り 3月4日 講師 高木裕美子(南丹市園部町在住) 【その他】 ・新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、できる範囲でおはなし会や工作会を実施した。 ・読書週間の「としょかん音楽隊のしおり」作りやブックカバー作りの取組により図書館に通うきっかけづくりを行った。		様々な企画を各館・室で行うことにより、来館(室)する機会をつくり、来館者数、貸出冊数を増やす。	
			令和4年度予算額	
				347,000円
成果	①(一般向け)で自身の取組を交え、多種多様な生物が共存する里山を後世に残していくことが大切であること等、お話しされ、大人の方の参加も多く、幅広い年齢層の方の参加があった。 (学校向け)ダチョウの生態や生命力の強さについて、ご自身が出演された番組の映像等を多数、織り交ぜながらお話しいただいた。卵から取り出した抗体が様々なことに役立てられることを聞いてダチョウに対する印象が変わったこと。好きなことを仕事にすることの楽しさや苦労等、様々なことを感じ、学んでもらえた		達成度	
	②糸かけ数楽アート教室に関連する図書の展示を行い新たな分野の図書に興味を持ってもらうきっかけづくりにつながった。読書手帳作りについては読書手帳の取組を知ってもらうきっかけづくりができた。 【その他】 新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながらちいさい子のおはなし会や図書室のつどいを実施することができた。 10月には中央図書館のマルチメディアルームを絵本の部屋に模様替えし、より絵本に親しみやすい環境の中でおはなし会を開催できた。 子どもの読書週間に実施した「としょかん音楽隊のしおり」作りの取組ではシールを集めることを楽しみながら、本を借りるきっかけづくりができた。読書週間に実施したブックカバー作りは大人の方にも好評で、読書への親しみを深めてもらうことができた。		身近な自然の魅力を知ることで、それについて学ぶ図書を手に取るきっかけづくりができた。工夫を凝らした催しを行う事で来館につながることができた。 年間来館者数：41,692人 (昨年比：+2.75%) 年間貸出冊数(個人)：101,962冊 (昨年比：-2.5%)	
			令和4年度決算額	
				235,522円
課題	図書館の資料に関連付けた内容とし、読書意欲の向上を図り、本に親しむ事業の実施に努める。文化博物館等、関係機関と連携した取り組みをより多く実施する。多くの児童生徒や市民に参加してもらえるよう広報の充実を図る。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和4年度社会教育事業報告	
意見内容	年間来館者数は昨年度より増加しており、コロナ対策を実施していたにもかかわらず多くの市民に活用されている一方で、貸出冊数が昨年度よりも減少している背景について分析が必要と考える。学校の子どもたちへ図書館事業のPRや取組を紹介するなど、図書に親しんでもらうさらなる取り組みが必要と考える。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	B	A(計画どおり又は計画以上の成果が得られた) B(課題は残しながらも概ね目標は達成できた) C(課題を残し、目標も充分達成できなかった) D(検討段階に止まり具体の成果はなかった)		

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	7	令和4年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成	
点検・評価対象とする事務事業	(7) 学校司書等設置事業		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 0歳から読書で学べる環境を構築する		
事業目的	各校に「ことばの力育成支援員（以下「支援員」と称する）を配置することで、学校図書館における読書環境の充実を図り、訪れたくなる図書館を目指す。また、子どもたちとコミュニケーションをとりながら読書習慣を定着させ、読書活動の推進を図ると同時に、学校での調べ学習に必要な資料を整えるなど情報センター、学習センターとしての機能の充実を図る。			
事業内容	<p>【環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館用図書の選書・購入と配架の工夫。 掲示物の工夫による読書環境の改善と読書意欲の喚起。 感染症対策を徹底し、安心・安全な読書環境の整備。 <p>【貸出業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒への図書の貸し出し、返却に関する業務。 お勧め図書等、児童生徒への本の紹介と読書の啓発。 <p>【学校教職員との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べる学習等における教職員に対する支援 <p>【子どもの居場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> 貸し出し業務に付随して、子どもの心に寄り添い、子どもたちに安心して居る場所を提供する。 <p>【会議・研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間4回（うち1回は研修会）の支援員会議を開催し、取り組みや課題を共有化し、対策を考えたり、資質能力の育成を図る。 			達成指標
				令和4年度予算額
				12,101,000円
成果	<p>【環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 南丹市立図書館との連携により、小中学校向け団体貸出及び南丹市立図書館・学校図書館連携図書の購入等の事業をうまく活用し読書環境の充実に努めた。 支援員のネットワークをTaemsで構築し、支援員同士が情報交換することができた。 <p>【読書活動の活性化に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の読書活動を振り返り、次の読書につなぐために読書記録「読書もりもりカード」を市内の全小学校と中学校1年生（中学校2、3年生は推奨）に導入した。 「さがり・本のことば」おすすめ本コンクールは、昨年度から友達におすすめ本を紹介する取り組みに改編し、昨年度比1.7倍の応募を集めた。 <p>【学校の教員との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 南丹市小・中図書館教育主任会議を開催し、教員と支援員の役割の違いと連携の重要性について再認識させることができた。また、読書活動活性化に向けた取組について共通理解を深められた。 			達成度
				令和4年度決算額
				11,282,380円
課題	<p>【新型コロナウイルス感染症に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染拡大防止策は、基本的に行動の制限を伴い、自由な読書活動には足かせとなる面がある。現在、支援員が学校と連携して工夫しているが、従来型の発想では限界がある。 <p>【学校教職員等との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度も、南丹市小・中学校図書館教育主任会議を開催して、各校の具体的な連携状況を振り返り・交流して、支援員との連携の在り方を協議した。しかし、日常的な連携に向けては課題が残る。 <p>【市立図書館による学校支援の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市立図書館が持つ専門性とリソースを学校教育に生かすべく「さがしてカード」と名付けた取り組みを支援員をキーパーソンとして実施している。現時点では、小学校で試行中であるが、中学校にも拡大する上で課題を整理し、その課題を克服し、本格実施につなげる必要がある。 			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	<p>コロナ禍の影響もあり、読み聞かせの回数確保は難しかったのは理解できる。開館日数が確保できた点について評価する。 また、学校との連携や図書館の様々な機能を見直す一方、何か新しい取組みに挑戦したり、市立図書館と連携して人的資源の有効活用という観点からも発展を期待する。先進的にことばの力育成支援員の取組みを行い定着していること、子どもの居場所として取組んでいることも評価する。</p>			
内部評価	A	<p>※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）</p>		
総合評価	A			

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	8	令和4年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業		(1) 生徒指導の3機能を生かした指導の充実		担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		実践の方向性 人権が尊重されるまちづくりの推進		
事業目的	いじめや生徒指導事象の未然防止と解決のため、児童生徒の自己存在感・有用感を高め、共感的人間関係を育み、自己決定を大切にした組織的な指導の充実を目指す。			
事業内容	南丹市小・中学校生徒指導主任会議を定期的開催し、いじめや生徒指導事象の原因や背景など児童生徒理解を深め、組織的に対応する研修を行い、各校で波及させる。また、南丹市いじめ防止等対策委員会を定期的開催し、いじめに関する取組について助言をいただき、各校の取組に生かす。		達成指標	
			<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導主任を対象とした研修会を複数回実施する。 ・定期的に対策委員会を開催し、外部からの評価指導を受け各校の指導に生かす。 	
			令和4年度予算額	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・6月3日に京都府警察ネット安心アドバイザーを講師にネットトラブルの対応についての研修、1月23日に市立中学校のいじめ対応の実践報告をもとに協議を通して積極的な生徒指導について研修を実施し、指導方法や対応について理解を深め各学校に波及できた。 ・南丹市いじめ防止等対策委員会を2回開催し、教育委員会や学校の取組に対する委員からの助言を生かし、学校現場等にフィードバックすることで、各校のいじめの未然防止等の取組に生かすことができた。 		達成度	
			<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導主任を対象とした研修会を2回実施できた。 ・定期的に対策委員会を開催し、その都度評価や指導を受けることができた。 	
			令和4年度決算額	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想により児童生徒一人一台タブレットが支給され、活用する機会が増えた。一方ネットによる問題事象が増加しており、児童生徒だけでなく教職員についても情報モラルの徹底が急務である。 ・学校生活全体の指導において、生徒指導の3機能を活かした指導の研修が必要である。 			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	生徒指導主任の研修会や対策委員会を複数回実施しており、達成指標をクリアしている。教育環境が整備される一方で、情報モラル教育の徹底はGIGAスクール構想の観点からも急務であり、問題事象についても情報を共有し、子どもの気持ちを尊重しながらどのように生徒指導に落とし込むかの工夫が必要と考える。南丹市が行う生徒の自己有用感を高める取組みの継続を求める。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）		

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	9	令和4年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業	(2) 人権教育事業（人権教育講座）		担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け	実践の方向性			
	人権が尊重されるまちづくりの推進			
事業目的	人権に関する学習機会を提供し、市民の人権意識の高揚を図ることを目的とし実施。			
事業内容	第1講…日時：令和4年7月2日（土）午後1時00分から 会場：南丹市園部文化会館「アスエルそのべ」大ホール 講師：岡本工介さん 演題：「『差別をなくす』から『手をつなぐ』へ」		達成指標	
	第2講…日時：令和4年9月30日（金） ①午後2時～ ②午後6時30分～ 会場：南丹市園部文化会館「アスエルそのべ」大ホール 内容：映画上映「あん」		参加者を増やし、人権に関する知識を深める。	
	第3講…日時：令和5年1月28日（土）午後1時30分から 会場：日吉生涯学習センター「遊youひよし」ホール 講師：明石一朗さん 演題：「好感・共感・親近感が高権力を育む」		令和4年度予算額	
成果	第1講 参加者 74名		達成度	
	第2講 参加者 118名		年3回のうち1回の講座を中止としたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置を取りながら取り組むことができた。	
	第3講 大雪により中止		令和4年度決算額	
		625,000円		
		379,196円		
課題	人権学習を意欲的に取り組んでもらえるように内容の充実を図り、幅広い世代の方々が参加してもらえるような機会を作る必要がある。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和4年度社会教育事業報告	
意見内容	人権についてはとても大切なテーマとして扱われている。 全3回の講座のうち、第3講が直前の大雪で実施できなかったのは残念だが、おおむね事業を展開できた点は評価できる。 インクルージョンや昨今の人権侵害事例を鑑みても、人権学習の推進は重要である。 幅広い年代を想定したテーマの選定が必要と考える。また、他の部署などと協働連携された事業や成果についても記載されたい。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）		

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	10	令和4年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業		(3) 児童生徒就学支援事業		担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 子どもを地域社会総がかりで守る仕組みを整える		
事業目的	経済的な理由により就学が困難な家庭の保護者に対し、就学に必要な援助を行う。			
事業内容	市内在住であり、市内の小・中学校に在籍する児童生徒の保護者に対して学用品費や学校給食費などの援助を行う。 経済的に就学が困難な家庭が適切に漏れなく援助が受けられるように、計画的に制度の周知を図る。 学校管理下で発生した児童生徒の不慮の災害に備える制度であるスポーツ振興センター掛金の補助を行う。 高等学校等進学に係る修学支援制度の周知を図る		達成指標	
			指標提示困難事業 制度周知 ①全校あてチラシ配布1回 ②新入学児あてチラシ配布1回	
成果	すべての児童生徒に対し教育機会を均等に提供できるよう、経済的な理由により就学が困難な家庭の保護者に対し就学援助費の助成を行い、経済的負担を軽減し就学を支援した。また、特別支援教育就学奨励費の助成を行い、特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減した。 新入学学用品費支給時期の前倒しを行い、小中学校入学前の経済的負担を軽減した。 経済的な困窮により、学校給食費が滞っていると思われる家庭に対し、制度説明を繰り返し行い、就学援助に繋げた。 【参考】就学援助率（準要保護）：H30…12.52%、R1…12.48%、R2…12.52%、R3…13.42%、R4…14.10%		達成度	
			指標提示困難事業 制度周知 ①全校あてチラシ配布1回 ②新入学児あてチラシ配布1回	
課題	真に必要としている世帯が援助を受けることができるよう、引き続き制度の周知を図る必要がある。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際し ての提示資料 等	
意見内容	南丹市における就学援助率はコロナ禍以降増加しており、対象児童生徒数は今後も減少するとは考えにくい。 この事業は必要とされる支援であり、ある一定の達成が見られるが、引き続き市は学校現場と連携を取り、生活困窮の状況の把握につとめ、効果的な就学援助を行う必要があると考える。			
内部評価	A		※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。	
総合評価	A		※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）	

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	11	令和4年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業		（4）長寿命化計画、安全・安心な学校教育環境整備事業		担当課 教育総務課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 学校や生涯学習施設の安全対策を図る		
事業目的	児童・生徒が安全で快適に学校生活を送れるよう、学校施設の整備や老朽化対策を行い、教育環境の充実と適正な維持保全を行う。			
事業内容	八木西小学校の体育館屋外トイレ兼倉庫新築工事及び2中学校の長寿命化改修工事の実施設計を行った。		達成指標	
	〔主な業務内容〕 ・ 殿田中学校長寿命化改修工事設計業務 ・ 美山中学校長寿命化改修工事設計業務 〔主な工事内容〕 ・ 八木西小学校体育館トイレ兼倉庫新築工事		安全で快適な教育環境をつくるため、工事設計や工事を行う。	
成果	・ 八木西小学校体育館屋外トイレ兼倉庫の設置により、体育館及び屋外での授業時にトイレの利用がしやすくなり、また、体育館を避難所として使用する際に避難者のためのトイレを整備することができた。 ・ 殿田中学校及び美山中学校の長寿命化改修工事の実施設計を行ったことにより、令和5年度に計画している長寿命化改修工事の発注資料の準備ができた。		達成度	
			工事設計及び工事を実施することにより、安全・安心な学校施設の整備を進めることができた。	
			令和4年度決算額	
		39,080,000円		
		令和4年度決算額		
		35,504,600円		
課題	教育施設長寿命化計画に基づき施設整備を進めるためには、最新の施設の状況を的確に把握し、短期・中期的な整備計画を立てながら市長部局（企画財政課）と連携を図ることが必要となる。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	八木西小学校、殿田中学校、美山中学校の事業が実施・準備できたことは評価できる。とくに八木西小学校のトイレ整備は地域の防災拠点の観点からも、子どもたちの学校生活環境の観点からも効果的であったと評価できる。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	12	令和4年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業	(5) 通学安全対策事業		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 学校や生涯学習施設の安全対策を図る		
事業目的	通学バス及びJRの定期券、中学校自転車通学費補助及び自転車通学用ヘルメット支給、スクールバスの運行、交通安全対策グッズの配布並びに通学路危険箇所安全対策の調整等を行い、南丹市立小・中学校児童生徒が安全安心に通学できる環境を整える。			
事業内容	○園部・八木・美山管内の小学校で遠距離通学となる児童についてスクールバスを運行し、負担を軽減するとともに安全を確保する。 ○小・中学校児童生徒の通学時の安全対策として以下を支給。 (小学校新1年生)交通安全帽子・防犯グッズ・安全鈴 (中学校新入生の自転車通学者)ヘルメット ○南丹市立中学校に通学する生徒のうち、遠距離の通学が必要で、路線バス・JR・自転車を利用する者に対して以下のとおり補助を行う。 ・バス・JRを利用する生徒へ定期券を現物給付 ・自転車通学者へは、年額10,000円の補助金を交付 ○通学路交通安全プログラムに基づいた通学路危険箇所安全対策の調整		達成指標 ●達成指標提示困難事業 各種補助事業の実施 通学路危険箇所安全対策進捗確認	
			令和4年度予算額 155,404,000円	
成果	○園部・八木・美山管内の小学校で遠距離通学となる児童について、スクールバスを安全に運行することができた。また、昨年度に引き続きコロナ感染症対策として、バスの運行等を一学期終了まで実施した。 ○小・中学校児童生徒の通園・通学時の安全対策として安全対策用物品を支給することができた。 ○南丹市立中学校に通学する生徒のうち、遠距離の通学が必要で、路線バス・JR・自転車を利用する者に対して以下のとおり補助を行うことができた。 ・バス・JRを利用する生徒への定期券の現物給付 ・自転車通学者へ、年額10,000円（夏季のみは5,000円）の補助金の交付 ○通学路交通安全プログラムに基づいた通学路危険箇所安全対策について、関係機関と連携し、ハード面とソフト面の両面から対策を進めた。 ※事故詳細については校園長会議でも報告し横断歩道を渡る際の注意徹底や、また登下校中は列から離れて行動しないなど啓発を徹底している。スクールバスの乗務員とも危険箇所について共通の認識を行ない、警察の協力により交通安全指導も実施している。また、通学路の横断歩道やバス停の位置については改めて危険箇所の確認を実施し、交通安全プログラムにより各学校から報告された危険箇所についても情報共有を行い、各関係機関の協力を得ながら順番にできるところから取組みと改善を行っている。		達成度 ●達成指標提示困難事業 各種補助事業を滞りなく実施できた。 通学路危険箇所安全対策については、常に進捗を確認し、他の関係機関との連携及び推進会議を実施することができた。	
			令和4年度決算額 152,321,557円	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・通学時の事故が12件（うち1週間以内のケガ7件、2週間以内のケガ2件、3週間以内のケガ2件、3週間以上のケガ1件）が発生した。 ・通学路の危険箇所のハード的な改善は、各機関が限りある予算の中、費用対効果を勘案しながら整備している。施設整備で対応できないところは学校等から交通安全指導を実施している。今後も一層、児童生徒自身がしっかりと危険性を認識できるよう交通安全の指導が必要である。 			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	※箇所は意見聴取会で追加説明	
意見内容	通学時の事故の発生箇所や状況について、情報共有を図ることが望ましい。12件発生した事故については詳細な内容についてその原因把握を行うことが必要となる。3週間以上のけがをした箇所についてはハード・ソフト両面の対応が必要となるのではないかと。コロナ禍を経て、周りの交通行動が変化している可能性も含め、引き続き分析を進めていく必要がある。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった） 		

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	13	令和4年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業		(6) 社会体育振興事業・青少年スポーツ育成事業		担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 生涯にわたって誰もがスポーツを楽しみ、文化に親しめる仕組みを整える		
事業目的	年齢・体力や目的に応じ、「誰もが・いつでも・どこでも・身近に・いつまでも」スポーツに親しめる生涯スポーツの推進を図ることで、市民ひとりひとりが、健康でいきいきと元気な生活を送ると同時に、地域社会の絆の深まりを創りあげる。			
事業内容	①南丹市スポーツ協会やスポーツ少年団と連携し、競技力の向上と普及活動を図る。また、総合型スポーツクラブにおいては、地域スポーツの推進を図る。 ②スポーツ少年団だより「なんすぼジュニア」の発行及びPV撮影とスポーツ少年団の指導者や保護者、スポーツ推進委員による講習会を実施する。 ③トップアスリートによる体験会を開催し、スポーツへの関心と親しみを深め、元気なまちづくりを図る。		達成指標	京都丹波トライアスロン大会でボランティアスタッフを募り「観る・支える」スポーツの支援を図る。 府民総体全競技に参加し、総合順位15位以内を目指す。 スポーツ少年団指導者の質の向上を図る
			令和4年度予算額	2,066,000円
成果	①昨年中止となった京都丹波トライアスロンも無事開催でき、徐々にではあるが、スポーツ事業が実施できるようになってきた。一旦落ち込んだスポーツ熱をスポーツ協会やスポーツ少年団と連携し、市民がスポーツに親しむ機会が増えた。 ②「なんすぼジュニア」の発行及びPVを撮影し、南丹市YouTube及びHPで南丹市で活動するスポーツ少年団を紹介した。また、「幼少期におけるアクティブ・チャイルド・プログラム」について事業を実施した。 ③卓球の石川佳純選手や楽天イーグルスの田中貴也選手らトップアスリートを迎えて、子どもたちにスポーツの楽しさを伝える事業を展開できた。 ④施設の日常点検を行い、安全確保を図ることができた。		達成度	京都丹波トライアスロン大会実施にあたり、協会やボランティアスタッフの支援を得て、大会を開催できた。大会を支援する体制も整いつつある。 府民総体全競技に参加することはできなかったが、総合順位13位を達成した。 また、スポーツ少年団の指導者及び保護者を対象にアクティブ・チャイルド・プログラムの講習会を開催した。
			令和4年度決算額	1,528,139円
課題	これまでスポーツに関わりのない市民へのアプローチを工夫し、スポーツを身近に感じ関わりをもってもらえる取組みを推進する。 幼少期から遊びの中に運動の基礎となる動きを取り入れ、様々な経験ができる場を子どもたちに提供し、スポーツの好きな子どもを育てることが必要。 施設の老朽化による不具合や機械の故障などの事象が多く、対策が必要である。また、利用状況等により施設の廃止も検討する。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	令和4年度社会教育事業報告 南丹市スポーツ推進計画
意見内容	スポーツ事業が実施できるようになっている点は評価できる。とりわけ、YouTubeやHPを活用した事業についてはインターネット環境さえあればだれでも視聴可能であり、幅広い年齢層において効果的であると考えられる。引き続き継続されたい。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	14	令和4年度重点実践項目	3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出	
点検・評価対象とする事務事業		(1) 歴史遺産振興事業		担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 地域資源（重要文化財や歴史資産）を学べる環境を整える		
事業目的	<p>森の京都「なんたん」エコミュージアム実行委員会が主体となって地域の歴史・文化を学び観光ボランティアとして地域学芸員を養成する講座を開設する。具体的には住民一人ひとりが学芸員を目指してフィールドワークも交えて文献や遺物はもちろん、行事、祭礼、芸能、芸術、民話などさまざまな形で今に残る有形・無形のモノ（資料）から地域の歴史を学び、地域の観光ボランティアとして活躍できる学芸員を養成する。</p> <p>そのために、市教育委員会も参画し、講座開設に携わる。</p>			
事業内容	<p>「地域学芸員養成講座」等を開催、大学講師や歴史研究家などを招聘し、専門的な講義とフィールドワークを行う。実施講座数：全6回、公開講座：全3回</p> <p>【地域学芸員養成講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回（10/7） 「丹波 行く人・来る人～ふるさとの歴史街道を歩いてみよう～」 ・第2回（10/15） 「五畿七道からみた交通路としての丹波国～現代に残る古代の地方区分と地名～」 ・第3回（10/26） 「街道沿いの仏教文化」 「多治神社の祭礼と系譜」 ・第4回（11/16） 「丹波地域の街道を彩る町家の特徴と地域性」 フィールドワーク ・第5回（11/17） 「山伏の回国修行～丹波・丹後の村々を歩く～」 ・第6回（11/24） 「戦国の街道と城跡～丹波・摂津国境を行き交う軍勢～」 「貝原益軒が歩いた丹波～旅日記と旅行案内～」 <p>【公開講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回（11/6） 「峯山藩主の参勤交代『道中記』」 ・第2回（11/12） 「丹波の京街道を探る」 ・第3回（11/20） 「鉄道と自動車の時代」 		達成指標	
			南丹市の文化遺産を活用した新たな経済活動の創生を目指すため、観光ボランティア（地域学芸員）20人以上を養成する。	
			令和4年度予算額	
成果	<p>地域学芸員養成講座、全6回、8講座、延べ受講者は113人 公開講座 全3回、3講座、延べ受講者65人 全講座受講した7人に修了書を交付した。 養成講座の講師となった大学教授や専門家から、南丹市内に現存する文化遺産は全国的に貴重な資料が多く、後世に守り伝える取り組みを継続して欲しいと助言を得た。</p>		達成度	
			全講座受講者数7人	
			令和4年度決算額	
				9,055,401円
課題	<p>5年計画である本事業は、新型コロナウイルス感染症の影響やテーマ設定もあり、4年目である本年は全講座受講者が減少した。新しい生活様式の中、受講生を獲得していく手段の検討が必要。また、地域学芸員は5年間かけて養成していくことになっているが、その後の取り組み内容をどのような形で継承し、発展させていくかが課題となっている。</p>			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和4年度社会教育事業報告	
意見内容	<p>計画した講座をすべて開催できた点は評価できる。 講座内容は南丹市の特徴を踏まえたものとなっているが、その一方で受講生を増やすための工夫が求められる。 計画した講座をすべて開催できたこと、5年間の地域学芸員養成講座を継続されていることは評価できる。</p>			
内部評価	B	<p>※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。</p>		
総合評価	A	<p>※評価の判断基準は下記のとおり</p> <p>A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）</p>		

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	15	令和4年度重点実践項目	3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出	
点検・評価対象とする事務事業		(2) 重伝建地区保存修理補助事業 及びかやぶき屋根保存修理補助事業		担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		実践の方向性 地域資源（重要文化財や歴史遺産）を学べる環境を整える		
事業目的	国の重要な文化財である美山町北重要伝統的建造物群保存地区を保全する事業。地区における建造物及び環境物件の管理、修理、修景または復元について、所有者に対してその経費の一部の補助を行う。また、南丹市内に現存する茅葺民家を保存するため補助事業を実施する。いずれも補助金を交付することにより、地域の景観並びに環境の保全を図る。			
事業内容	【重伝建地区保存修理補助事業】 美山町北は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、日本古来の景観が良好な形で残されている。その保全について国や府と協力しながら事業を進めた。		達成指標	
	【かやぶき屋根保存補助事業】 南丹市は全国的にみても茅葺屋根の残存度が高いとされており、日本古来の景観が残されている。その保全を図るために補助事業を進めた。		【重伝建地区保存修理補助事業】 修理・修景事業について景観に配慮した事業を進める。 【かやぶき屋根保存補助事業】 南丹市全域に広げ修理事業を実施。	
			令和4年度予算額	
			26,178,000円	
成果	【重伝建地区保存修理補助事業】 周囲の景観に調和するように工事を行い、維持・管理が行えた。 実施件数：7件 主屋茅葺屋根復元（1件） 主屋茅葺屋根修理（2件） 主屋外壁修理（1件） 主屋庇修理（1件） 停留所屋根修景（1件） 防災設備修理（1件）		達成度	
	【かやぶき屋根保存補助事業】 補助事業がなければ維持することが難しい茅葺屋根の民家を残すことが出来た。 実施件数：8件		【重伝建】7件の修理・修景事業を文化庁・京都府と調整し進めることが出来た。 【かやぶき屋根】8件の修理事業を進めることが出来た。	
			令和4年度決算額	
			25,614,594円	
課題	<p>【重伝建地区保存修理補助事業】 現在、保存地区の中でも空家が顕在化してきており、今後高齢化が進むことは、地区の景観を守る上で大きな課題となってきている。選定当時より屋根材料の高騰や経済状況により、葺替に対する補助金の見直しも必要になってきている。また、保存と活用を両立しながら景観を守る修理・修景について、専門家や地区の事情に精通した建築士と協議できる場づくりが必要となっている。</p> <p>【かやぶき屋根保存補助事業】 茅葺屋根は日本古来からの屋根形態であるが、時代の流れとともに消えつつある。現状を保護することで景観形成上大きな成果を上げており、国の重要建造物群保存地区である美山町北がテーマパーク化していない現状は、本補助金により周囲の景観維持による下支えも大きな要素であると考えられる。また、茅の消費地である南丹市は茅の生産にも目を向けることで循環型社会の構築を目指し、雇用の創出にも寄与する方向性を具体化する必要があると考えられる。</p>			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和4年度社会教育事業報告	
意見内容	南丹市には多くの地域資源があり、これらの維持管理は今後の課題のひとつとなる。本年度は多くの修理・修景事業が進んだと評価できる。実施した成果等についてもPR資料として保存活用されても良いのではないかと。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	16	令和4年度重点実践項目	3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出
点検・評価対象とする事務事業		(3) 展示会事業	担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 市の文化財の魅力の創出と発信を行う	
事業目的	南丹市にまつわる歴史的・文化的な資料を中心に紹介する展示会を開催することにより、市民の学習意欲を刺激し、生涯にわたっての学習の機会を提供する。また、地域をより深く知ることにより、郷土への愛着心を醸成する。		
事業内容	文化博物館では秋季展「街道一人々の暮らしをつなぐ道」を開催した。街道に焦点を当てて開催した。館独自の体験事業やギャラリートークなども実施した。このほか、森の京都「なんたん」エコミュージアム実行員会とも連携し、各種講座等の連携事業も展開した。 日吉町郷土資料館では、毎年夏に開催している戦争をテーマとして夏季展を実施した。本土復帰50年を迎えた沖縄県と南丹市の関わりに焦点を当て、京都の塔などを紹介した。期間中講演会も実施した。		達成指標
			文化博物館秋季展入館者、700人以上。郷土資料館夏季展、300人以上。
			令和4年度予算額
			5,380,000円
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋季特別展（文化博物館）「街道 一人々の暮らしをつなぐ道」 期間：令和4年10月22日～12月4日 開館日数：40日 展示点数：約90点 入館者数：295人 関連事業：11/13、12/3：ギャラリートーク（延べ6人） 製作物等：ポスター、チラシ、展示会図録、複製資料等 ・ 夏季企画展（日吉町郷土資料館）「戦争と南丹市～沖縄とのかかわり～」 期間：令和4年7月16日～9月11日 開館日数：48日 展示点数：140点 入館者数：477人 製作物等：ポスター、チラシ ・ 夏季企画展（文化博物館）「園部垣内古墳～発掘50年を振り返る～」 期間：令和4年8月6日～10月10日 開催日数：54日 入館者数：718人 製作物等：ポスター、チラシ 		達成度
			文化博物館秋季展では、地域の歴史を街道に焦点をあてて紹介することができた。こうした取り組みは地道な活動であるが、地域の歴史を掘り起こすことになるので継続していく必要がある。郷土資料館については、夏には戦争展を実施している印象を利用者に定着できている面において成果があると感じている。
			令和4年度決算額
			4,307,734円
課題	文化博物館秋季展では、南丹地域に所在する街道の歴史や周辺地域の文化を古文書や絵図などの諸資料から紹介することができた。こうした地域の歴史を題材にした展示会はどうしても来館者が伸びず無料だったら行く方も一定数いるものと思われる。貴重な文化財を展示しても見てもらわなければ始まらないので、ギャラリートークの日などを無料入館日として設定するなどの試みも考えている。いずれにしてもこのような取り組みをどのように継続していくか課題が残る。日吉町郷土資料館の夏季展については、平成24年から戦争をテーマとして展示会として継続している。利用者からも概ね好評を博しており継続事業としていきたい。		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和4年度社会教育事業報告
意見内容	郷土資料館夏季展は達成指標をクリアできている。とりわけ、夏季展については戦争をテーマとして継続展示し、それが利用者の定着に寄与していると考えられる。一方で、文化博物館秋季展入館者は達成指標をクリアしておらず、地域学芸員を活用して取組みを紹介したり、学校や地域と連携するなどさらなる手法と工夫が必要と考えられる。引き続き成果や効果が見られるこの体制を継続されたい。		
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり	
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	17	令和4年度重点実践項目	3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出	
点検・評価対象とする事務事業		(4) 文化財維持管理事業		担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 市の文化財の魅力の創出と発信を行う		
事業目的	市内にある貴重な歴史遺産等文化財の保全に対する補助を行う。また国の重要伝統的建造物群保存地区における防災施設の維持管理事業や重要文化財である石田家住宅について、保存と公開を進めるため施設管理を保存会に委託する。			
事業内容	<p>経年劣化や災害による被災状況を確認し、専門家や京都府と相談しながら各補助事業を活用し、文化財を保存していくための事前調査と、未指定である文化財の価値を調査し文化財として位置づけて後世に伝えるための価値調査に分けられる。そうした調査や調整を進めて、令和4年度には社寺等の修理事業を21件実施した。</p> <p>調査事業としては市内にある茅葺民家の調査（立命館大学と連携）や仏像調査（同志社大学と連携）を進めた。また、市内の社寺や民家について国登録文化財候補として2か所測量等を実施した。昨年度に引き続き、大谷大学や京都美術工芸大学と連携し、調査や修理事業を実施した。</p> <p>維持管理事業としては石田家住宅（重要文化財）の公開などを保存会に委託し実施した。</p> <p>普及啓発事業としては、紹介する取り組みとして、生涯講座の1つとして開催される歴史講座を実施した。</p>		達成指標	
			専門家や地域と連携し、文化財の調査や修理を進め後世に引き継いでいく。	
成果	<p>補助事業事前調査を行うことにより、京都府関係の補助事業を実施することが出来た、大学との連携においては、京都美術工芸大学と地元（殿田区）と連携して仏像修理を行った。</p> <p>国登録文化財候補の現地確認を実施し、今後申請を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 石田家住宅管理運営業務（石田家住宅保存会へ委託）1,042人/92日 		令和4年度予算額	
			11,864,000円	
課題	<p>市内には多くの文化財があり、指定されているもの以外にも貴重な有形・無形の文化財が継承されてきている。それらの保存のための基礎的な調査や普及啓発活動を行っているが、さらに継続した調査を進め、本市ホームページを活用した広報活動も行う。</p>		達成度	
			大学や地域と共同で修理事業を行うことが出来た。	
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	令和4年度社会教育事業報告
意見内容	市内にある文化財の調査が求められる。 指定文化財はある程度事業で維持管理できているが、それ以外の文化財についての調査が必要と考える。 市内の文化財の実態や全体像を把握したうえで、緊急性の高い文化財の修繕を優先的に行うことが求められる。また、様々な媒体を活用した積極的な広報活動が望まれる。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	B	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	18	令和4年度重点実践項目	3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出
点検・評価対象とする事務事業	(5) 学校給食運営管理事業		担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 さまざまな学習機会を創出する	
事業目的	<p>児童生徒の心身の健全な発達及び食育の推進を図るため、栄養価はもとよりバランスの取れた献立による安全安心な学校給食を提供する。</p> <p>地域で活躍する人、地域の食や食材、地域社会を支える仕組みなど、地域社会で受け継がれてきたことや、地域を支えてきた「人・もの・こと」を広め、発展・継続していくような様々な学習機会を創出する。</p>		
事業内容	<p>市内7小学校、4中学校（約2,400食）に安全な給食を提供するため、学校給食衛生管理基準に照らし、適切な衛生管理のもと給食調理を行う。</p> <p>（地産地消・食育推進）給食で地場産物を使用することにより、食に関する感謝の心や、地域とのつながりや愛着を深める。</p> <p>（安全な給食を提供する取組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> 衛生管理（調理作業）マニュアルの遵守 調理器具や施設設備の点検や維持管理 学校給食従事者の健康管理 衛生管理研修会の実施 <p>（会計運営）食材の適切な購入および給食費の適切な徴収管理</p>		<p>達成指標</p> <p>南丹市給食指導年間計画に基づき、学校給食を通じた食に関する指導を行う。</p> <p>食中毒の事故発生ゼロ。</p> <p>学校給食費の徴収率98%以上。</p> <p>施設管理不備による給食停止ゼロ。</p> <p>地場産物使用の新規拡大。</p>
			<p>令和4年度予算額</p> <p>327,187,000円</p>
成果	<p>（地産地消・食育推進）</p> <p>地元生産者や農家を訪問して栽培状況などを聞き取り、新しい品目（シラス・人参）の活用につなげた。また、生産者を訪問した内容を「地産地消だより」としてまとめ各校に配布、掲示することで、児童生徒の地元農業への関心を高めた。*地場産物利用率27.7%</p> <p>京都府立農芸高等学校「和牛甲子園」の取組連携により、高校生による小中学校への出前授業の実施（小学校5校14学級、中学校3校5学級）と給食への牛肉無償提供（4調理場分119.5kg）により、食材への関心や生産者への感謝の気持ちを育てる取組になった。</p> <p>南丹市食育健康レシピコンテストは、地元産の米や野菜を使用したレシピを、各小中学校の児童生徒が応募（小学校110点、中学校283点）し、地産地消や健康的な食生活を考える機会になった。「学校給食賞」を受賞したメニュー（和風マーボー）は各調理場で献立に取り入れ好評を得た。</p> <p>（安全な給食を提供する取組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> 衛生管理や異物混入防止に向け、日々の作業前後及び長期休業時の器具・設備点検を徹底して実施した。 全調理従業者を対象に、衛生研修会を実施することで安全性の高い給食提供につながる事ができた。 		<p>達成度</p> <p>「令和4年度 南丹市『食に関する指導』年間計画」に沿った学校給食を実施した。</p> <p>食中毒の事故発生ゼロ。</p> <p>学校給食費の徴収率99.98%。</p> <p>施設管理不備による給食停止ゼロ。</p> <p>地場産物使用の生産者新規拡大（1件）</p>
			<p>令和4年度決算額</p> <p>319,147,091円</p>
課題	<p>調理場の老朽化による機器の故障や修繕案件が頻発しており、施設修繕や設備更新に多額の経費が必要となるため、機能集約や長寿命化に向けた調整や検討事項の整理が必要である。</p> <p>また、直営調理場における調理員などの人員管理や確保に苦慮している。</p>		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	「地産地消だより」
意見内容	<p>地産地消の食育や給食は南丹市の大きなメリットであり、他市町村ではあまりみられない特徴であるため、ぜひ継続してもらいたい。</p> <p>本年度は施設管理不備による給食停止はなかったが、施設の老朽化に対しての修繕はなるべく早期に実施することが望ましい。</p>		
内部評価	A	<p>※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。</p> <p>※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。</p> <p>※評価の判断基準は下記のとおり</p>	
総合評価	A	<p>A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた）</p> <p>B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた）</p> <p>C（課題を残し、目標も充分達成できなかった）</p> <p>D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）</p>	

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	19	令和4年度重点実践項目	4. 文化芸術の継承・発展による文化の向上	
点検・評価対象とする事務事業		(1) 生涯学習推進事業(文化祭・文化鑑賞)	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 文化芸術を楽しめる環境構築に努める		
事業目的	社会教育施設、特にホール施設を活用して、文化協会等の各種団体と連携しながら、市民が文化芸術に触れる機会をつくり、地域における文化力の向上を図る。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・10～11月に各町文化協会との共催で文化祭（ステージ発表・作品展示）を実施（園部：無観客で実施 八木・日吉・美山：有観客で実施） ・各施設にて住民の作品展示を通年実施（写真、絵画、絵手紙など） ・市民対象の映画上映会（なんたんむ〜び〜） 		達成指標	
			魅力ある事業を企画し、参加者及び来場者を増やす。	
			令和4年度予算額	
		440,000円		
成果	新型コロナウイルス感染症予防対策を実施した上で事業実施をすることができた。 文化祭 ステージ発表40団体、作品展示44団体 映画の入場者数 197人		達成度	
			各町における文化祭の開催や映画上映会の開催など魅力ある事業を実施することができた。	
			令和4年度決算額	
		132,000円		
課題	市民が文化芸術に触れる機会を少しでも増やすために、「新しい生活様式」を基本としつつ、オンラインなどを活用した新たな開催方法の模索が必要。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和4年度社会教育事業報告	
意見内容	文化祭および映画上映会ともに実施できた点は評価したい。 文化祭においてステージ発表や作品展示について団体数は明記されているが、参加者数が明記されていないので、できれば経年変化がどうなのか、把握できるようにするとなお良い。 また、合同で文化祭を実施したり、ホームページなどを活用して協会同士のコミュニケーションを図ったりして、活気づくりが必要と考える。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	B	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	20	令和4年度重点実践項目	5. ダイバーシティ教育の推進	
点検・評価対象とする事務事業		(1) 外国語教育推進事業		担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 外国語教育や多様な文化の学習を充実させる		
事業目的	外国語教育では、外国語の習得だけでなくコミュニケーションを図る能力を高めながら、国内外文化的多様性や相互理解の充実を図る。 新学習指導要領に対応した教育内容を確実に浸透させる。			
事業内容	ALTの配置：小・中学校 5名 総時間 1,436時間 英検受験(補助対象)人数 149名 外国人講師を招くなど、外国文化に触れる機会を設定し、学ぶ動機づくりを市内各校で進める。		達成指標	
			外国人講師とのコミュニケーション回数を設定し、異文化理解への意欲を高め、英検受験（補助対象）者を昨年度より増やす	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・本市では、ALTをJETの派遣ではなく独自に配置しているためコロナ禍の影響を受けなかった。また、配置時間数についても、手厚く配置できた。 ・令和3年度から学習指導要領は全面実施となり、移行を進めることができた。 ・英語検定料を一部補助（3分の1）することで、学習意欲や生徒の英語力を向上させることができた。 ・受験者が一定数いることと、受験等級が上級化している。 		令和4年度予算額	
			4,569,000円	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学力について、ALTの手厚い配置や英検補助事業等で昨年度より上がっているものの府平均より下回っている。 		達成度	
			英検受験者数（補助対象分） <ul style="list-style-type: none"> ・30年度 99名 ・元年度 115名 ・2年度 162名 ・3年度 134名 ・4年度 149名 	
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	小学校での外国語科の導入が定着した本年度において、コロナ禍の影響を受けずにALTの配置ができた点は成果を高く評価できる。 学習指導要領の全面実施にともない、英語検定の受験者数が増加することが予想されるため、さらなる事業の充実を求めたい。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）		

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	21	令和4年度重点実践項目	5. ダイバーシティ教育の推進	
点検・評価対象とする事務事業		(2) 適応指導教室の運営		担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 ユニバーサルデザイン環境の構築に努める		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 様々な理由で登校できない状態または、その傾向にある児童生徒の居場所をつくり、相談、適応指導を通して集団生活への適応、社会的自立を目指す。 			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 適応指導教室の通室状況や取組内容等について協議、検討する運営委員会を通して、より効果的な支援につながる教室運営を行う。 定期的な支援会議や学校訪問、指導員会議、キントーンの活用等を通して、協働的なアセスメントと支援を推進するとともに、多様な支援ニーズへの対応力の向上を図る。 年間3回開催する不登校児童生徒支援担当者会議を通して、不登校児童生徒支援の拠点化を目指した運営を行う。 		<p style="text-align: center;">達成指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や関係機関と連携して、アセスメントを基にした支援を行い、通室生の変容をまとめる。 不登校児童生徒支援担当者会議を、年間3回実施する。 	
			令和4年度予算額 6,422,000円	
成果	<ul style="list-style-type: none"> 適応指導教室運営委員会において、多様な意見に基づいた協議、検討がなされ、教室運営の充実に資することができた。 学校、関係機関と協働したアセスメントの継続及び、多様な支援ニーズへの対応力の向上を図ることができた。 年間3回の不登校児童生徒支援担当者会議を実施し、社会的自立を目指す不登校支援のあり方について、ワークショップ実践事例を通して具体的に学ぶことができた。 		<p style="text-align: center;">達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> アセスメントを軸にした学校との連携等により、通室開始や登校へとつながるなど、個々のペースにおいて社会的自立に向けた通室生の変容が見られた。 不登校児童生徒支援担当者会議を年間3回実施することができた。 	
			令和4年度決算額 5,381,057円	
課題	<ul style="list-style-type: none"> 教室経営においては不登校児童生徒の多様性の理解と支援の充実や、親支援の在り方について検討する。 各ブロックの実情に応じた小中連携、他機関連携の促進に向けた環境づくり、多面的なアセスメントや多層的な支援の推進など不登校支援における拠点化機能の向上を図る。 不登校支援担当者会議での学びを活かした小中連携等の協働的、組織的な支援の営みを通して、各校における社会的自立に向けた不登校支援についての理解を深める。 			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	<p>不登校の児童生徒数は年々増加しており、コロナ禍以降の増加は顕著である。ゆえに、適応指導教室の役割は重要である。 不登校児童生徒が適応指導教室を経て、どのような生活・進路を選択したのかを達成度に記載するとよい。 小中連携、他機関連携など具体的な取り組みを運営に取り入れてさらなる工夫を望みたい。</p>			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	22	令和4年度重点実践項目	5. ダイバーシティ教育の推進	
点検・評価対象とする事務事業		(3) 特別支援教育推進事業		担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 バリアフリー意識の啓発・浸透に努める		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育システムの構築を目指して、すべての児童生徒にとって学びやすい授業や教育環境の整備を推進する。 ・教育支援委員会では、アセスメントと指導支援を積み重ね、障がいの状態や教育的ニーズ、本人及び保護者の意見等を踏まえた総合的な観点から「学びの場」を判定する。 ・「育ち合う子らの集い」作品展を実施し、互いの「違い」を認め、「同じ」を感じるという「心のバリアフリー」意識の涵養を図る。 			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育充実事業（南丹市特別支援教育支援員の配置） （南丹市特別支援教育支援員研修会） ・南丹市教育支援委員会の運営 ・「育ち合う子らの集い作品展」の実施 		達成指標	
			コロナ禍における創意工夫を行い、それぞれの事業目標に対する評価を「概ね達成できた」にする。また、次の段階に進めるための具体的な課題と達成に向けた方策を明確にする。	
			令和4年度予算額	
			29,536,000円	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級における支援員18名の配置により、発達特性に応じた児童生徒の学びを促すための支援を充実することができた。研修会を通して支援員の役割について認識を深めることができた。 ・コロナ禍における教育支援委員会の運営を工夫しながら、対象児童生徒のアセスメントや指導支援とともに就学相談活動を丁寧に行い、判定協議を進めることができた。 ・各ブロックの実行委員会に、丹波支援学校、保育所、幼稚園、小中学校の校種連携により開催することができた。作品展の目的である「心のバリアフリー」の目指す方向性を共有しながら進めることにより、各ブロックの実態に応じた方法で、「心のバリアフリー」意識の涵養が図れた。 		達成度	
			コロナ禍における創意工夫を行い、それぞれの事業目標が概ね達成できた。また、次の段階に進めるための具体的な課題は明確にすることができた。達成に向けた具体的な方策については、整理する必要がある。	
			令和4年度決算額	
			26,478,399円	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の特別支援教育における支援員の役割を明確にするとともに、対象児童生徒のアセスメントと支援の方向性を支援員と共有しやすくする。また、特別支援学級在籍児童の発達課題の多様化を踏まえ、特別支援学級においても必要に応じた支援員による支援も検討する必要がある。 ・各校園の校内委員会において、アセスメントによる教育的ニーズの把握及び指導支援とその評価の延長線上に就学判定があるという考え方を基盤に運営できるように市教育支援委員会を機能させる。 ・コロナ禍における実施に向けて「育ち合う子らの集い」の在り方について整理した上で推進する必要がある。 			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	インクルーシブ教育の充実は、グローバル化や社会の分断が進む現代において今後も重要である。各学校・園の事例や道徳の授業を活用しながら、継続した取り組みが必要である。人権教育、道徳教育とも連携しながら進めていくことが重要である。また、先進的な知見に基づいてアセスメントを行い、当該児童生徒の支援ニーズを把握し、それに基づいてピンポイントの指導支援をしていく必要があると考える。			
内部評価	A		※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり	
総合評価	A		A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	23	令和4年度重点実践項目	6. 自己肯定感・有用感の育成	
点検・評価対象とする事務事業	(1) 校種間連携推進事業		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 異年齢で学びや交流の場を広げる		
事業目的	中学校ブロックを単位とした校種間連携体制の下で進める研究・研修活動を通して、子どもの発達理解・教育内容を深め、授業力・保育力の向上を図る。			
事業内容	授業を含む一斉研修会2回（6月・11月） 夏季研修会：園部中B（地域道徳） 八木中B（学力向上：教務主任会議） 殿田中B（地域道徳） 美山中B（地域道徳） 4ブロック教育実践報告会（代表校長会）		達成指標 年間2回の研究会及び夏季研究会を開催する。八木中ブロック・殿田中学校ブロックに学び、市全域での「地域道徳」の実践を進める。	
			令和4年度予算額	
			230,000円	
成果	中学校ブロックを単位として、全小学校・中学校・幼稚園及び保育所による校種を越えた交流・研究事業が展開できたことにより、就学前から義務教育9年間を見通した連携と研究が深まり、子どもの理解と学びの姿勢づくり・学力向上に繋がってきている。 中学校ブロックで「目指す子ども像」共有し、地域道徳の推進に向けた取組を推進することができた。		達成度 公開授業を含む一斉研究会：2回実施 夏季研修会：1回実施 「地域道徳」研究報告会：2回実施	
			令和4年度決算額	
			178,365円	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～質問調査結果で示される児童生徒の非認知能力の育成について、中学校ブロックで育てたい児童生徒の姿を共有して実践を進める。 ・就学前に育てたい10の姿について、保・幼の実践から学ぶ。 			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	<p>4ブロックともに幼保小中の交流・研究事業が展開できている点は評価できる。 3ブロック共同協力体制で、ブロックを超えて地域道徳の研修が実施され、皆で教育実践に取り組みられている点は評価できる。 市で問題意識の共有が図られている点も重要である。 一方で八木中のように学校独自の課題にフォーカスした研修も必要であり、両者のバランスの取れた連携を今後も続けてほしい。</p>			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）		

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	24	令和4年度重点実践項目	6. 自己肯定感・有用感の育成
点検・評価対象とする事務事業	(2) 子どものための地域連携事業		担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 地域における子どもの居場所を充実させる、子どもが地域社会で勝康できる場を創出する	
事業目的	地域総がかりで子どもを育み、様々な技能や技術を持つ地域人材が子ども達に伝え教え関わることで、健康寿命・長寿延伸に繋がる。子ども達にとっても、地域人材と関わることで様々な体験を積むことができるとともに、顔見知りになることで安心できる大人に見守られ、安全で安心な生活が送れる。		
事業内容	地域と協働連携して、ものづくりや環境活動、共同作業、三世代交流等の取り組みを実施する。		達成指標 全小中学校区での実施。
			令和4年度予算額 5,609,000円
成果	<p>教員や地域の大人が子どもと向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図ることができた。小中学校12校に地域学校協働活動推進員を配置することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後子供教室 摩気高山子ども未来塾、神吉太鼓教室、八木西教室 ・地域学校協働活動推進事業 全小中学校で実施（学習支援、教科補助、花壇植栽、図書整理、クラブ活動支援、体験活動支援、下校サポーター等） 		<p>達成度</p> <p>【放課後】園部地区1箇所（摩気高山教室）八木地区2箇所（神吉教室、八木西教室）で実施できた。</p> <p>【地域学校】小中学校12校で推進員の配置及び活動実施ができた。学習支援（未来塾）では3中学校で実施できた。</p>
			令和4年度決算額 5,203,945円
課題	<p>【放課後子供教室】 実施箇所は昨年に比べ減少した。長期的に持続可能な居場所づくりを、人材や支援体制面で考えていく必要がある。</p> <p>【地域学校協働活動推進事業】 地域学校協働活動推進員を配置したことで、学校教職員と連携していく必要があるため、学校内での地域学校協働活動推進員の存在と活用について認識を深める必要がある。 学校教職員と連携する中で、今までと同じものばかりでなく一歩進んだ活動を展開する必要がある。</p>		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和4年度社会教育事業報告
意見内容	<p>地域学校協働活動推進事業は全小中学校で実施できた一方、放課後子供教室は実施箇所が減少した要因についてわかる範囲で明記すると次年度の対策ともなるのではないかと。地域学校協働活動推進員の存在と連携についても配慮しておく必要がある。両事業ともに幅広い世代が子どもと関われる事業であるため、下支えする部分をしっかりと固めて、全体で取り組みが進められるよう今後のさらなる発展を期待する。</p>		
内部評価	B	<p>※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。</p> <p>※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。</p> <p>※評価の判断基準は下記のとおり</p>	
総合評価	B	<p>A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた）</p> <p>B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた）</p> <p>C（課題を残し、目標も充分達成できなかった）</p> <p>D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）</p>	

令和5年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和4年度対象）

項目番号	25	令和4年度重点実践項目	6. 自己肯定感・有用感の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(3) コミュニティ・スクール推進事業		担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 地域人材が学校で活躍できる場を創出する		
事業目的	コミュニティ・スクールを核に学校・家庭・地域の連携・協働体制を確立し、学校教育の充実と地域の活性化を図る。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の研修会の実施を通じCSへの理解の深化と今後の展望につなぐ <ul style="list-style-type: none"> 第1回 5月実施 管理職（校・園長）対象 第2回 6月実施 地域連携担当教職員対象（地域学校協働活動推進員と合同開催） 第3回 2月実施 CSマイスターによる学校別個別相談会（管理職、学校運営協議会会長、地域学校協働活動推進員） ・コロナ禍の状況を踏まえつつ、工夫をしながら学校運営協議会及び熟議の開催を学校に促し、目指す子ども像と価値観の共有化を図る。 ・目指す子ども像の実現に向けて「地域道德」の取組と連動させ、一体的に取組を進める。 ・教育委員会事務局におけるCS研修の実施。 		達成指標	
			<ul style="list-style-type: none"> ・全市立学校で、学校運営協議会及び熟議を実施する。 ・全市立学校で「地域道德」の取組と連動させた学校運営協議会の実施。 ・教育委員会内における研修の実施。 	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きコロナ禍の中ではあったが、前年度に比べて学校運営協議会の開催に対する抵抗が少なくなり、ゆっくりと平常化に向けて動き始めることができた。 ・管理職と地域連携担当教職員の職務について、各校において一定の整理がされ、地域学校協働活動推進員との連携が改善されつつある。（地域連携担当教職員と地域学校協働活動推進員の合同研修会における協議より） ・学校運営協議会が各校においてほぼ定着し、学校運営協議会の存在を前提とした学校経営が行われつつある。 ・「地域道德」の推進に当たっては、学校運営協議会の組織や委員をうまく活用し、保護者・地域住民が参画した道徳授業の実現につなぐ学校が多く見られた。 		令和4年度予算額	
			688,000円	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会に直接関与している教職員及び保護者・地域住民のコミュニティ・スクールに対する理解・認識は深まっているが、それ以外の教職員の当事者意識は十分ではない学校が見られ、地域住民の理解についても広がり欠ける状況がある。一般教職員の学校運営協議会及び熟議への参加、地域住民への一層の啓発・広報活動の活性化が必要と考える。 ・コミュニティ・スクールとしての年数が重なることで、目指す子ども像の具現化に向けた活動の追求から前例踏襲型の取組に変質しかねない危うさを感じる学校がある。常に目指す子ども像を確認し、その実現に向けてという基本を確認しつつ進める必要がある。 		達成度	
			<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会及び熟議は全校で実施できたが、内容面から考えると熟議に至っていない学校があった。 ・管理職、地域連携担当教職員対象の研修とCSマイスターによる学校別個別相談会は予定通り実施でき自校の取組改善に資することができた。 ・「地域道德」について、学校運営協議会での協議を通じて保護者・地域住民参画型の道徳授業につなぐことができた。 	
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	<p>全市立学校で、学校運営協議会及び熟議が実施されている一方、内容で熟議に至っていない学校があったり、当事者とそれ以外の教職員および保護者・地域住民との温度差という難題が残されている。</p> <p>すぐに解決できる問題ではないが、各学校による情報交換等、先進的に取り組んでいる学校の事例を共有するなどさらなる取組みを深める工夫が必要である。</p>			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）		